

省資源・廃棄物対策

Resource Conservation & Waste Management

貴重な地球資源保護の観点から、使用原材料の削減等による廃棄物の発生抑制 (Reduce)、再利用 (Reuse) およびサイクル (Recycle) のいわゆる3Rの促進が求められています。また、廃棄物の処理をめぐって最終処分場の不足、不法投棄

の増加や不適正な処理など、生活環境や人々の安全な暮らしに重大な支障が生じかねない多くの課題を解決して行かねばなりません。

製薬協では

工場・研究所などの事業所から発生する廃棄物の削減のため、自主的な目標を設定し、取り組んでいます。

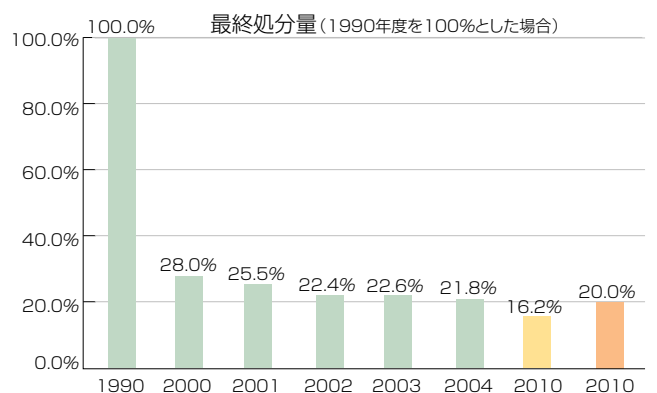
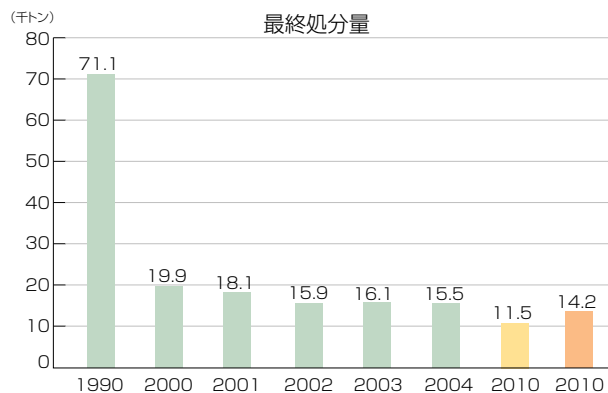
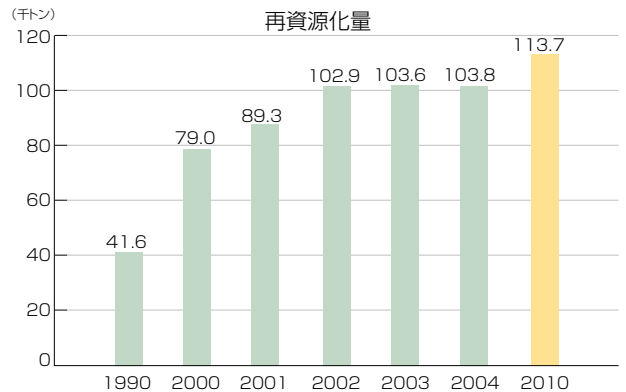
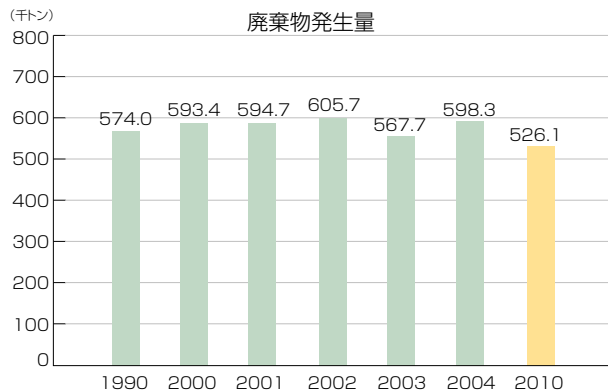


目標

最終処分量を2010年度までに20%まで削減する(1990年度基準)

会員会社の廃棄物発生量は2000年度以降、年度によりわずかな増減はあるものの約60万トンで推移しています。再資源化量は2002年度までは順調に増加しましたが、それ以降は微増の状態です。また、目標となる最終処分量については2002年度までは順調に削減してきましたが、ここ3年間では、横ばいで推移しています。会員各社では、中間処理の改善や

再資源化の取り組みなどの活動をすすめており、2004年度実績では既に21.8% (1990年度基準)と目標に手の届くところまで来ています。2010年度見通しでは目標達成が容易に見えますが、今後追加施策のない場合は、達成困難との予測もありますので、会員各社は更なる削減への取り組みを行ってまいります。



製薬協会員会社76社を対象にアンケート調査を実施し、回答のあった71社の集計値を、売上高カバー率で補正しています。売上高カバー率は96.7%でした。

■実績 ■見通し ■目標



■ 在宅医療廃棄物の取扱いに関する検討

一般家庭から排出される在宅医療廃棄物による健康被害や環境汚染リスクを回避するために、その回収から最終処理までの方法等について環境省の「在宅医療廃棄物の処理の在り方検討会」等で検討が行われています。現在見直し中の容器包装リサイクル法(以下「容リ法」)では、リサイクル制度にそぐわない医薬品直接容器等もありますが、それらを含め対象としている容器包装について、一律に回収・リサイクルすることを目標としているように思われます。

一方、自己注射の注射針、使用済医薬品等の在宅医療廃棄物が一般廃棄物として家庭より排出される際に、一般消費者、回

収業者等が針刺し事故によるHIVウイルス・肝炎ウイルス等へ感染するリスク、あるいは使用済医薬品等による環境汚染や一般消費者の健康被害の危険性も指摘されています。また、スプレー缶入り医薬品容器の一般廃棄物への排出は、残留ガスの爆発だけでなく内容物の暴露による危険性もあります。これらの在宅医療廃棄物については、回収およびリサイクルする工程で上記のリスクが発生することから、容リ法の対象から除外し、専門ルートによる収集・処理を行うのが適切と考えており、製薬業界の意見として行政に提案を行っています。

ライフサイクルアセスメント(LCA)研究会

PTP包装のLCAの試み

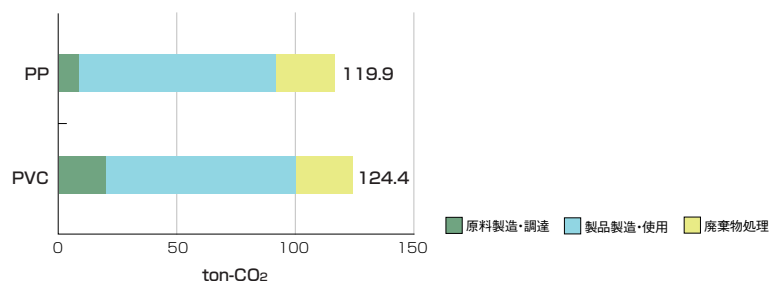
LCA研究会の活動の中で、PTP包装製品(医薬品)におけるプラスチック素材としてポリ塩化ビニル(PVC)とポリプロピレン(PP)の環境負荷をLCAの観点から比較検討を行いました。

1.検討条件および範囲

- PTP10錠シートを1,000万シート製造・使用・廃棄した場合のプラスチック素材の環境負荷を求めた。
- 環境負荷項目として、CO₂排出量、エネルギー消費量、水使用量、廃棄物発生量などがあるが、代表値としてCO₂排出量を選択した。
- 対象範囲は、素材調達、素材輸送、PTP包装製品製造、製品輸送、製品使用、廃棄PTP包装輸送、廃棄物処理までの工程とした。

2.結果

下図にPTPシートを1,000万シート製造する場合のCO₂排出量を示します。



上記の対象範囲では、総CO₂排出量はPVCの方がPPより若干大きいですが、その差はLCAの誤差範囲程度であり有意差がないと言えます。また、工程別で見ると、PVC、PPいずれも全体のほぼ2/3を製薬会社におけるPTP製品の製造時のCO₂排出量が占めました。

本検討において、CO₂排出量面からは両素材間で大差はないと考えられます。今後、LCA手法の有用な活用方法を更に検討したいと考えています。